



早稲田大学総長 殿

2010年7月14日

所属 大学院商学研究科
資格 教授
氏名 平野 雅章 印

特別研究期間研究成果報告書

1. 研究課題：IT投資／支出・組織特性・経営成果に関する研究のためのデータベース構築
2. 研究期間：2007年8月1日 ～ 2008年1月31日（1学期6ヶ月間）
3. 研究場所（国/都市・機関名）：東京・東京工業大学
4. 研究成果概要（2,000字以内）：

表記研究課題は、それまで東京工業大学の飯島淳一教授および妹尾大准教授との共同で進めてきたIT投資／支出・組織特性・経営成果に関する研究をより大規模サンプルで実施するための準備段階に位置づけられる。

そもそも我が国においては、IT投資／支出と経営成果との関係についての実証研究（特に、主観的なデータではなく、客観的な業績データなどに基づくもの）が圧倒的に不足しており、本報告者を代表とする研究グループによる試みが恐らく日本では初めてのものである。本報告者は、100社以内のサンプルで始めたIT投資／支出・組織特性・経営成果に関する実証研究を、より大きなサンプルに拡大するための予備的なデータ整理を行い、これを基に科研費の申請を行うことを目的として、東京工業大学において特別研究期間を過ごした。

本研究課題のためには、IT投資／支出データ・組織特性データ・cの3種類のデータセットを揃える必要がある。また、本研究の特徴として、回答者または研究者の主観的なデータを排し、極力客観的な計量データを得ることを目標としている。

（1）IT投資／支出データ

現在国内で得られる最良のデータソースは、経済産業省による「情報処理実態調査」である。これは指定統計で毎年無作為に選ばれた約9000社のうち約4000社余りの企業から回答を得ているが、このデータの使用については主として二つの問題がある。まず、回答企業が毎年異なるため、経時的なデータを得ようとする、サンプル数が急速に小さくなってしまいうことである。このために、サンプル

※研究終了後2ヶ月以内に提出してください。ワープロ原稿の貼付けも可。なお、学術研究活動情報（学術年鑑 Web）のホームページに掲載しますので、電子メールでも研究支援課まで（tokkenseika@list.waseda.jp）ご提出くださるようご協力をお願いします。

サイズを確保しようとする、何らかの工夫が必要となる。一方、このデータは原則として非公開であり、データ使用のためには厳しい条件が課される。

(2) 組織特性データ

本研究の枠組みでは、IT投資/支出データのリターンを決定する要因として組織特性を仮定しているが、適切な組織変数の選択とその計測尺度の設定が重要となる。これまでの実証研究によりある程度の見通しを得てきているが、一層の精緻化が課題となる。また、その組織データを、上記サンプル企業の内なるべく多数から得ることが不可欠であり、その方法の検討が必要である。

(3) IT投資/支出データ

上場企業については、公開されている財務データを使用する。経産省のサンプル企業には、必ずしも公開企業が多くないので、非公開企業の財務データ入手法は課題として残る。

特別研究期間の間に、上記課題について討議や基礎調査、試行錯誤を重ねて、試作的なデータセットを作成すると共に、より大きなデータセットを作成できる見通しを得ることができた。この結果を基に、東京工業大学の飯島淳一教授を研究代表者として、本報告者と妹尾大准教授の他に一橋大学の蜂谷豊彦准教授を加えて研究グループを組織して、平成20年度の科学研究費補助金を申請すると共に、補足的なデータ整備を行って特別研究期間を終えた。

なお、本特別研究期間の成果を基に申請した科研費は、「IT投資と経営成果に対する組織特性の役割と価値に関する研究」(基盤(A))として、現在進行中であることを補記する。